長崎医療センター
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS

専齋 SENSAI

2025 FEBRUARY VOL.432

発行所
独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター
〒856-8562
長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL 0957-52-3121
FAX 0957-54-0292



ワンチームで年間5,000例以上の手術に対応する手術室の皆さんです

医長紹介
内分泌代謝内科医長　安井 順一

先端医療特集
da Vinci Xi サージカルシステム

TOPICS
- 日本放射線腫瘍学会第37回学術集会 最優秀演題賞受賞
- 令和6年度メディカルスタッフ喀痰吸引研修を通じてタスクシェアを推進!

人生100年時代の予防医療
第15回　根拠に基づいた予防医療を!
JPPSTF日本予防医療委員会のご紹介

院内さるく Vol.22
臨床研修運営委員会

ガーデニングだより Vol.20

今月の一皿

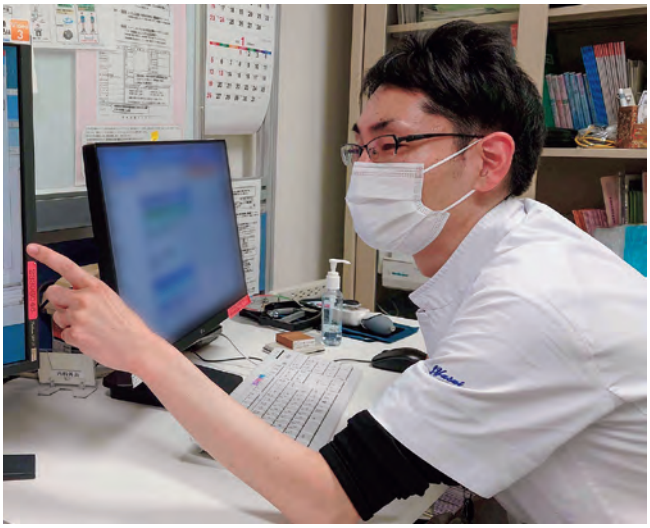
院長'sVOICE Vol.7

外来診療担当医一覧

長與 專齋（1838年～1902年）
大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめて採用したのも專齋である。專齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

内分泌代謝内科医長　安井（やすい）　順一（じゅんいち）

至誠一貫



糖尿病診療における最近の話題

血糖測定器の進化

最初は、「間歇スキャン式持続血糖測定器」であるFreeStyleリブレ®の進化です。2024年に新型リブレ®2が登場し、多くの患者さんが使用しています。リブレ®は、グルコース値を連続的に測定することで、血糖の動きを“線”として可視化できる機能を持っています。この機能により、患者さんがご自身で食事や運動が血糖値に与える影響をより深く理解し、治療の質を向上させることが可能となりました。さらにリブレ®2では、専用アプリを利用することで8時間おきのスキャンが不要となり、使いやすさが大きく向上しています。

インスリンポンプの進化

次に、1型糖尿病の治療に使用するインスリンポンプの性能向上についてです。2021年当時、当院ではミニメド®640Gインスリンポンプを使用していました。この機種は、低血糖を予測して基礎インスリンの注入を自動で一時停止する機能を備えており、低血糖の予防に役立っていました。2024年から導入したミニメド® 780Gインスリンポンプは、低血糖だけでなく高血糖も予防・抑制する機能を備えており、大きな進化を遂げています。このポンプの登場により、インスリン分泌能がほとんど失われている患者さんの血糖管理が改善され、生活の質が向上しています。

新薬の登場と将来への期待

治療薬の分野でも注目すべき進展があります。2025年1月に世界初となる週1回投与型の持効型溶解インスリンアナログ製剤が使用可能となりました。これにより、糖尿病治療の選択肢はさらに広がり、患者さんやご家族にとってより効果的で負担の少ない治療が期待されます。患者さんやそのご家族に治療内容を丁寧にご説明し、ご納得いただいた上で最適な治療を進められるよう、引き続き努めてまいります。



当科カンファレンス



リブレ®2
（アボット社HPより引用）



インスリンポンプ
（日本メドトロニック株式会社HPより引用）

先端医療特集

da Vinci (ダヴィンチ) Xi サージカルシステム

外科医長　米田 晃



2023年12月、当院において内視鏡手術支援ロボット ダヴィンチXiを導入させていただき、現在まで泌尿器科や消化器外科を中心にダヴィンチを使用した手術を行っています。日本においてはまず、泌尿器科領域で保険収載され、その後消化器領域、呼吸器領域、心臓血管外科領域、産婦人科領域、頭頚部領域などに保険適応が拡大されています。ダヴィンチのシステムの構成ですが、実際に患者さんの体内に挿入される鉗子や内視鏡などを装着する4本のロボットアームを有するペイシェントカート、術者が見ている画像を映し出し、電気メスの出力を行うビジョンカート、術野を立体的に見渡せるモニターやロボットアームを操るためのコントローラーを有するサージョンコンソールに分かれます。執刀医の操作台であるサージョンコンソールから遠隔操作でロボットアームに装着された先端の道具を動かして手術を行います。ダヴィンチ手術の特徴をですが、① 鮮明な高画質で立体的な3Dハイビジョンシステムで画像を確認しながら手術を行うことができます。高精細な画像は組織の細かい構造や配置を適切に把握することができるため、開腹手術や今までの腹腔鏡手術に比べ、より安全な手術を行うことができます。② 鉗子の先端は人間の手のように多くの関節を有し、鉗子が自由に曲がることも大きな特徴です。これに加え、手振れ防止機構があるため鉗子の手振れがございません。また、手の動きと鉗子の動きの比率を調整できるため精密な動きが可能となります。ダヴィンチ手術により、痛みの軽減などによる低侵襲性、合併症の軽減や出血量の減少などの安全性、繊細かつ正確な切除による根治性改善、手術前と同等の機能保持を目指した機能温存性を向上させ、早期の社会復帰、長期的な予後の改善やQOLの向上を目指せるのではないかと考えられます。



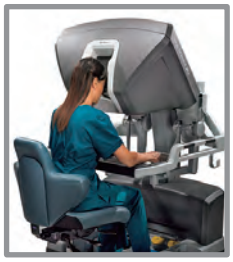
サージョンコンソール



ペイシェントカート

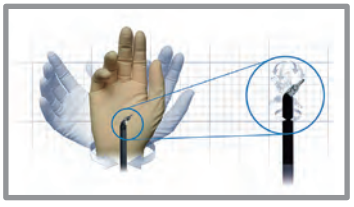


ビジョンカート









TOPICS

日本放射線腫瘍学会第37回学術集会 最優秀演題賞受賞

放射線看護専門看護師　大石 景子

乳がんの放射線治療対象となる方は普段の生活を送りながら治療を受けます。しかし、乳房全摘術後の放射線治療では皮膚への照射線量が高くなるよう計画されることから、重度の急性放射線皮膚炎の発症による患者の生活の質（QOL）の低下を招き、それが治療最大のデメリットとなり、副作用による身体的・精神的苦痛が、患者の生活において大きな弊害となることは言うまでもありません。今回、照射野にポリウレタンフィルムを貼付し照射することで、急性放射線皮膚炎を軽減させ患者のQOL維持に寄与できることを期待し研究を実施しました。研究結果を日本放射線腫瘍学会第37回学術集会において発表させていただいたところ、最優秀演題賞ならびに優秀教育展示賞を受賞することができました。今後もこの結果を広く情報発信することで、少しでもがん治療を受ける患者のQOL維持に貢献できればと思っております。最後になりましたが、本研究にご協力いただいた全ての皆様に感謝申し上げます。



TOPICS

令和6年度メディカルスタッフ喀痰吸引研修を通じてタスクシェアを推進!

整形外科 診療看護師（JNP）　溝上 佳史、　言語聴覚士　伏谷 志保

日常の看護場面では、高齢化による体力の低下、各機能の反射の低下により痰の喀出が困難となるため痰の吸引が必要な場面に直面します。また、痰の貯留は生命に直結するため、痰の吸引は患者の安楽、QOL向上に寄与すると考えます。

そこで、当院では、毎年、多職種によるチーム医療の推進をふまえ、メディカルスタッフ（理学療法士（PT）、作業療法士、言語聴覚士、臨床工学技士（ME））を対象に、安全な喀痰吸引の知識・技術の習得を目的に「メディカルスタッフ喀痰吸引研修」を実施しています。

今年度は、患者の役に立ちたいという熱い想いで受講を希望したPT3名、ME1名を対象に研修を行いました。開講式後、講義、技術演習、実地研修において、主体的な学びを積み、関係部署や病棟のご支援のもと、2025年1月に修了式を迎えることができました。

本研修は、平成25年度の開始以降、61名が修了しています。今後は、修了者のフォローアップを並行して行い、チーム医療やタスクシェアの推進に向けて活動していきたいと思います。





人生100年時代の

予防医療

～あなたらしく生き抜くために～

第15回　根拠に基づいた予防医療を！
JPPSTF日本予防医療委員会のご紹介

総合診療科・総合内科 医長　森 英毅

JPPSTF

Japan Preventive Services Task Force

病気の予防や早期発見は、健康維持や医療資源の有効活用に不可欠です。

米国では、米国予防サービス専門委員会（US Preventive Services Task Force: USPSTF）が、最新の科学的根拠に基づき各種スクリーニング検査や健康介入の効果・安全性を評価し、医療現場や市民が安心して活用できる推奨事項を提示しています。専門家による厳正なデータ分析により、無駄な検査や治療を避け、必要な予防策を選ぶための判断材料が提供されています。

日本においてもエビデンスに基づく予防医療の充実を目指し、今年度 JPPSTF（Japan Preventive Services Task Force）が設立され発起人の一人として活動しております。

https://jppstf.org/

JPPSTF は健診・検診に関する論文データを科学的に収集・解析し、その結果に基づいた推奨事項を提案する取り組みを行なっていきます。不要な検査や治療の回避はもちろん、必要な予防医療の推進を提言することで、地域全体の健康増進に寄与することが期待されます。

適切な予防医療の社会実装を目指し、得られた研究成果を地元大村市の皆さまにも還元することで地域の健康増進に貢献してまいりたいと考えています。

JPPSTF の今後の活動に是非ともご注目ください！



院内さるく

Vol.22 臨床研修運営委員会



臨床研修運営委員会は毎月第1水曜に開催されています。メンバーは必修診療科の教育責任者、1年次、2年次の初期研修医代表、後期研修医代表、事務部門、教育センタースタッフ、病院幹部で構成されており、臨床研修に関わる様々な問題について毎回活発な議論が行われています。臨床研修に関する新たなアイデアや取り組みも当委員会を中心に発信されています。

教育研修管理運営部長 長岡 進矢

診療放射線部だより Vol.7

副診療放射線技師長　小濵 義幸

診療放射線放射線技師の診療補助業務は、CT・MRI・X線撮影など放射線画像検査と高エネルギー放射線を利用してがん細胞に照射を行う放射線治療があります。

今回、放射線治療について紹介します。

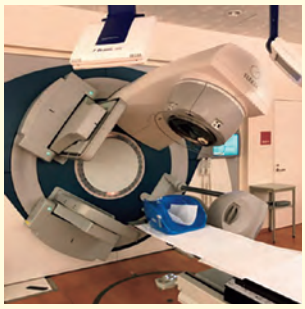
当院は県央地区がんセンターとして放射線治療に注力しており、リニアック2台（Varian社、Elekta社）とRALS装置1台（Nucletron社）を保有しています。リニアックは緩和治療から高精度放射線治療（ピンポイントで線量を集中させる定位治療、放射線に強弱をつける強度変調放射線治療（IMRT）、CT画像等で正確に位置照合し照射する画像誘導放射線治療（IGRT））を提供しており、2023年度実績で422人に治療を実施しました。RALS（遠隔操作密封小線源治療）装置では、子宮がんに対して腔内照射と組織内照射、ハイブリッド照射（腔内と組織内の併用）を2023年度実績で29人に治療を実施しました。RALSでは画像誘導小線源治療（IGBT）を導入し、長崎県内でも最も多くの治療人数を誇ります。

これからも、放射線治療医、看護師（放射線看護専門看護師）と密に連携し、患者さんと真摯に向き合い、最適な放射線治療を提供できるよう研鑽してまいります。

当院の放射線治療装置



リニアック（Varian社）

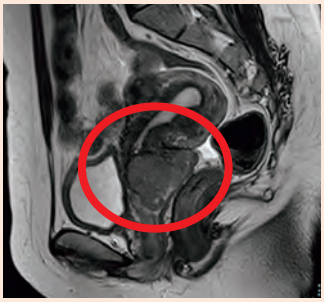


リニアック（Elekta社）

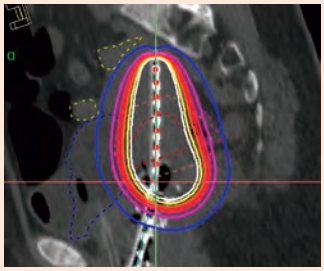


RALS装置（Nucletron社）

放射治療一例



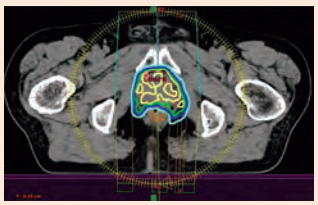
子宮頸がんRALS治療前

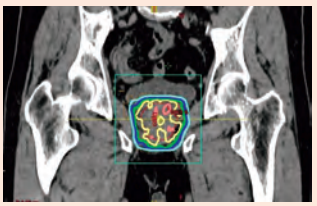


RALS治療計画



治療後





前立腺がん　IMRT（前立腺に線量を集中させ、直腸線量を低減させている）

ガーデニング便り

Vol.20



今回紹介するのは、ハボタンです。ハボタンは丈夫で育てやすく春まで長く楽しめます。昔のハボタンのイメージは大きく雑駁な感じでしたが、今ではカラフルでサイズも様々、おしゃれなイメージが定着しています。寄せ植えの主役ですね。ちなみに寄せ植えは奥様の作です。ハボタンは2年前にも登場しています。これに気付いた方は「ガーデニング便り」フリークですね。今年もよろしくお願いします。

副院長　黒木 保

今月の一皿

#2025 節分

今年は暦の関係で2/2が節分となりました。豆まきに使用される大豆にはイソフラボンが多く含まれます。ホルモンバランスを整え、乳がんのリスクの減少が期待されます。炒り大豆に多いですが油揚げやきな粉等の加工品にも含まれます。

栄養管理室 荒木 翔太



院長's VOICE

Vol.7

医療機関訪問



昨年12月より、島原半島から医療機関訪問を行っています。目的は、長崎医療センターと地域医師会や医療機関との連携を深めることです。2月末までに、島原地域13施設、諫早・東長崎6施設を訪問します。

診療時間の合間に5分から30分程度の時間をいただき、当センターへの紹介に関する課題やお困りごとなどをお聞きし、今後の紹介の参考のために当院の各診療科長の写真や専門分野、スタッフ名を冊子にしてお渡しました。

お話の中で、受診患者の高齢化が進み、紹介に際してバスや島鉄など交通の便が悪くなり大村までの移動が厳しくなってきていることがわかりました。しかし、どの先生も『最終的には長崎医療センターにお願いすることになります』と言われています。地域医療機関との協力の成果だと感謝しています。

当センターとしては、これまで同様に『**高度医療**の提供施設・**救急医療の砦**』としての役割を担って行きます。引き続き、諫早・東彼杵3町へ訪問しますので、医師会のみなさまよろしくお願いいたします。

外来診療担当医一覧表

受付時間　8時30分～11時30分（ただし急患はその限りではありません。）

（★は新患対応）令和7年3月1日現在

	月	火	水	木	金
総合診療科	当番制	当番制	当番制	当番制	当番制
肝臓内科	★長岡　進矢 ★末廣　智之 ★児嶋　知仁 山崎　一美	★佐伯　哲 ★末廣　智之 ★釘山　有希	★小森　敦正 ★山﨑　一美 八橋　弘	★長岡　進矢 ★本吉　康英 ★小森　敦正	★本吉　康英 ★釘山　有希
消化管内科	★西山　仁	★後藤　高介 ★峯　彩子	午前　★西山　仁 午後　★中島　悠史郎 （炎症性腸疾患 専門外来）		★中島　悠史郎 （炎症性腸疾患　専門外来） ★今村　祥子
内分泌・代謝内科	★安井　順一 ★片岡　こころ 山崎　悠介	★山﨑　悠介 安井　順一 片岡　こころ	★安井　順一 山崎　悠介	★山﨑　悠介 安井　順一	
腎臓内科	★岡　哲 中村　麻衣子		★伊達　雅浩 岡　哲	中村　麻衣子	★中村　麻衣子 伊達　雅浩
循環器内科　午前	★於久　幸治	★福田　侑甫	★森　彩	★松尾　崇史 ★石松　卓（不整脈）	★深江　貴芸
循環器内科　午後	★小出　俊朗	★石松　卓（不整脈） ★福田　侑甫	於久　幸治	石松　卓（不整脈）	
呼吸器内科	★原　敦子 池田　喬哉	★末原　照大	近藤　晃 ★池田　喬哉	★乗富　大地	★近藤　晃 原　敦子
血液内科	午前　小林　裕児 午後　★渡辺　春香	★今泉　芳孝	吉田　真一郎	午前　今泉　芳孝 午後　★小林　裕児	午前　吉田　真一郎 午後　★西村　紗央里
脳神経内科（神経内科）	★徳田　昌紘 ★佐藤　和明 足利　裕哉	★岩永　洋 ★足利　裕哉	徳田　昌紘		★岩永　洋 徳田　昌紘
膠原病・リウマチ内科	★岡田　覚丈		★岩永　希	★岩永　希	午後　★岡田　覚丈
小児科　午前	★本田　涼子（神経） ★山田　洸夢（第2・3・4） （心臓・一般） ★西口　奈菜子（神経・一般） 桑原　義典（第1）（心臓）	★本村　秀樹（心臓） ★石橋　洋子（一般・心臓） ★濱口　陽（新生児・乳児） ★石橋　信弘（心臓・一般） 田中　茂樹（神経）	★青木　幹弘（新生児・乳児） ★本田　涼子（神経） ★和泉　啓（内分泌） ★山田　洸夢（心臓・一般）	★西口　亮（新生児・乳児） ★石橋　洋子（心臓・一般） ★石川　太郎（一般） ★池田　憲呼（神経・一般）	★青木　幹弘（新生児・乳児） ★石橋　信弘（心臓・一般） ★石川　太郎（一般） 本村　秀樹（心臓） 安　忠輝（神経）
小児科　午後	本村　秀樹（心臓） 発達外来	★本村　秀樹（心臓） 安　忠輝（神経）	一ヶ月健診 ★大学医・当番医（内分泌）	発達外来	シナジス外来
皮膚科　①外来紹介・新患	★石川　博士	★里見　直義	★石川　博士 午後　★宿輪　哲生	★里見　直義	★中牟田　瑠璃
皮膚科　②旧患	里見　直義	石川　博士	中牟田 瑠璃	石川　博士	里見　直義
皮膚科　③入院中の紹介	中牟田　瑠璃	中牟田 瑠璃	里見　直義	中牟田 瑠璃	石川　博士
外科	★黒木　保（胆・膵） 釘山　統太 （胆・膵・一般外科）	★米田　晃 （食道・胃・一般外科） ★福井　彩恵子（一般外科） ★南　恵樹（乳腺・内分泌外科） ★森田　道（乳腺・内分泌外科）	★北里　周（肝・一般外科）	★米田　晃 （食道・胃・一般外科） ★南　恵樹（乳腺・内分泌外科） ★森田　道（乳腺・内分泌外科）	★竹下　浩明 （大腸・肛門・一般外科） 藤岡　ひかる （肝・胆・膵・消化器）
呼吸器外科			★田川　努 ★松本　理宗		
心臓血管外科			★有吉　毅子男 ★嶋田　隆志		★有吉　毅子男 ★嶋田　隆志
脳神経外科	★小野　智憲 ★原口　渉	★案田　岳夫	★定方　英作	午後　原口　渉	★小野　智憲 ★吉田　道春
整形外科・リハビリテーション科	伊藤　勇人 ★太田　真悟	宮本　俊之（★第1・3・5） （再 第2・4） 梅木　雅史（★第2・4） （再 第1・3・5）	★下永吉　洋平 熊谷　謙治	★伊藤　勇人 向井　順哉	★森　圭介
形成外科	★藤岡　正樹 ★西園　馨子	★古賀　一史 ★日吉　尚	★藤原　洸平	★藤岡　正樹 ★日吉尚 / 西園馨子	★藤原　洸平 ★古賀　一史
産婦人科	★古賀　恵 ★福田　雅史 プレコンセプション外来	★安日　一郎 ★山下　洋 胎児スクリーニング外来	★菅　幸恵 ★杉見　創 産褥1ヶ月検診（午後）	★五十川　智司 ★山口　純子 子宮鏡外来 ワクチン外来	★福田　雅史 ★小川　真幸 レジデント外来 NIPT 外来
泌尿器科	★大仁田　亨 錦戸　雅春	松屋　福蔵	★錦戸　雅春	★鹿子木　桂	★大仁田　亨 ★松島　俊樹
移植後フォローアップ外来	錦戸　雅春	松屋　福蔵	錦戸　雅春		大仁田　亨
耳鼻咽喉科	★田中　藤信 ★吉田　晴郎 ★諸富　幸	★松井　彰子	★田中　藤信 ★吉田　晴郎 ★諸富　幸	★吉田　晴郎	★田中　藤信 ★松井　彰子
眼科	★前川　有紀 ★中尾　志郎 ★吉村　遥香 ★大槻　早紀 ★斉藤　淳哉	★前川　有紀 ★中尾　志郎 ★吉村　遥香 ★大槻　早紀 ★斉藤　淳哉	午後　中尾　志郎	★前川　有紀 ★中尾　志郎 ★吉村　遥香 ★大槻　早紀 ★斉藤　淳哉	★前川　有紀 ★中尾　志郎 ★吉村　遥香 ★大槻　早紀 ★斉藤　淳哉
放射線科（治療）	本多　功一 武田　達哉	★本多　功一 ★武田　達哉 中村　太祐（午後のみ）	本多　功一 武田　達哉 中村　太祐（午後のみ）	本多　功一 武田　達哉	★本多　功一 ★武田　達哉

※紹介状なしで受診を希望される患者さんにつきましては、診察料とは別に、選定療養費として7,700円をご負担いただきます。
ただし、紹介状がある場合は選定療養費（7,700円）の負担はありません。「かかりつけ医」等からの紹介状をお持ちいただきますようお願いいたします。

理　念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実に行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 救急医療の最後の砦となる
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する

外来担当医一覧の最新版はこちらからご覧ください

長崎医療センター NEWS
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS
https://nagasaki-mc.hosp.go.jp/
VOL.430